

医療最前線

胸の鈍い痛み要注意

生活習慣の改善必要

□ 先進医療が力

心臓と血管は「生命を運ぶ臓器」と言われ、よくラジオラインに例えられます。東日本大震災で電気やガス、水道が寸断され日常生活がまひしました。同じように心血管系に障害が起きると大変な事態になります。代表的な心血管病である虚血性心臓病、不整脈、心不全についてお話します。

虚血性心臓病は冠動脈の動脈硬化が原因で起きる疾患です。狭心症と心筋梗塞に大別されますが、病態はかなり違います。狭心症は血管の内腔が狭くなり、心筋に供給される血液が不足して起こります。心筋梗塞は血栓ができて血管が詰まり、心臓に血流が行かなくなつて心筋が壊死(えし)し、最悪の場合は死に至ります。

長寿のための心血管病の知識

共通している症状は、締め付けられるような左前胸部の鈍い痛みです。痛みのは局所ではなく、ある程度の広がりがあります。痛みが20分以内で治まれば狭心症、30分以上続けば急性心筋梗塞の疑いがあります。原因となる動脈硬化の危険因子には、不変因子(加齢、性別、遺伝)と可変因子(高血圧、高脂血症、糖尿病、肥満、喫煙、運動不足、ストレス)があります。治療には生活習慣の改善、薬物療法、冠動脈インターベンション(カテーテル治療)、冠動脈バイパス術などがあります。これらを駆使しても胸痛発作を繰り返す重症者に対しては、私たちが開発した低出力体外衝撃

健康講座

東北大学院医学系研究科循環器内科学分野教授 下川 宏明さん



しもかわ・ひろあき 1954年生まれ。福岡県出身。九州大医学部卒。メイヨークリニック研究員、九州大学院医学系研究科助教授などを経て、2005年から現職。06年米国心臓協会学会賞、14年ヨーロッパ心臓病学会賞を受賞。

波治療という最新治療を使われていて、日本でも2010年から先進医療として承認されました。心臓の血液が不足している部分に非常に弱い衝撃波を当てると、血管が新生されて血流が改善します。私たちはスイスのメーカーと共同して心臓病専用の衝撃波治療装置を開発し、治療に当たっています。現在、20カ国以上で6000人以上に

□ からつき危険

心臓には、刺激伝導系という電気回路があります。回路の途中に問題が生じると不整脈が起こります。ふらつきや失神は危険なサインです。何年も続いている不整脈は良性で通常は問題ないのですが、症状の変化に注意が必要です。「最近、今までになかったふらつきが起る」といった場合は、不整脈の性質が変わってきている可能性があります。一度診察を受けてください。

不整脈の治療もまず生活習慣の改善です。薬物治療、外科的手術のほか、高周波アブレーション治療です。高周波電流で頻脈の原因となつている組織を焼いて壊死させます。

□ 突然死の原因

心不全は、心臓の機能が弱り、全身が必要とする血液を十分に送り出すことができなくなった状態で、急性心不全と慢性心不全があります。突然死の原因になります。心不全を思わせる症状は、日常生活の動作や軽い運動で起きる呼吸困難、説明のつかない体重増加、手足のむくみ、夜間のせきや多尿などです。周囲の人から指摘されることが多いのですが、自分では説明ができない体重増加が見られたり、頸(けい)静脈が腫れたりした場合は、心不全が起りかけているサインです。早めに受診してください。

役に立つ虚血性心臓病の知識

(胸痛の特徴)

- ① 症状: 締め付けられるような鈍い痛み
- ② 部位: 左前胸痛 (放散痛もあり)
- ③ 誘因: 運動や精神的興奮で増悪
- ④ 持続時間: 20分以下(狭心症) 30分以上(急性心筋梗塞)
- ⑤ ニトログリセリンが有効